大阪府警察本部棟新築工事に伴う

大坂城跡の発掘調査

(財)大阪府文化財調査研究センター

犬の土人形（安土・桃山時代）

大阪城と調査地

発掘調査風景

調査の経過

今回の発掘調査は大阪府警察本部棟の新築工事に伴うものです。調査は大阪府の委託をうけ、財団法人大阪府文化財調査研究センターが行っています。なお、現地での発掘調査は平成11年３月から開始し、同年10月には終了しました。

現在は豊臣大坂城に関わる遺物包含層を洗浄して遺物を抽出する作業と遺物の洗浄や接合復元などの基本的な整理作業を行なっています。なお、前者では後に紹介するような微細な遺物を検出するなど多くの成果をあげています。

調査地周辺の歴史的環境

大坂城が立地する上町台地は水運や地形に恵まれ、古代より交通の要所として重要な位置を占めてきました。古墳時代には大規模な倉庫群が立ち並び、飛鳥から奈良時代には２時期にわたって難波宮が造営されます。また、難波津と呼ばれる港が栄え、物資の集散地であったと同時に迎賓館のような建物もあったと推定されます。

平安時代から中世は記録が少ないため詳しいことはわかりませんが、室町時代になると蓮如が本願寺を建立し、一向宗の本拠として大きな勢力を持ちます。しかし、一向宗は天下統一を目指す織田信長との戦いに敗れて制圧され、本能寺の変で信長が倒れた後は羽柴秀吉によって大坂城の築城が始まります。秀吉は全国統一を進めながら本丸・二の丸を築き、やがて広大な惣構を構築します。さらに晩年には惣構の内側に伏見などから大名屋敷を移転させた三の丸を築き、ここに堅固な城郭と商工業者で賑わう城下町が完成します。しかし難攻不落を誇った大坂城も秀吉の死後、大坂冬の陣・夏の陣によって落城し、その後の徳川氏による膨大な盛土によって地下深くに埋もれてしまいます。

江戸時代に徳川氏によって再建された大坂城も明治維新の際に再び焼失し、大阪城周辺は明治時代以降、大日本帝国陸軍の軍用地となります。そのため太平洋戦争末期には激しい爆撃を受けますが、終戦後は史跡整備され都心のオアシスとして今に至っています。

調査地周辺航空写真（平成11年撮影：1／8000）

時代	西暦	年号	記事
古代	645	大化元	大化の改新、都を難波長柄豊碕に移す
	652	白雉３	難波長柄豊碕宮完成（孝徳朝難波宮）
	679	(天武)8	難波に羅城を置く（天武朝難波宮）
	686	朱鳥元	難波宮大蔵省から出火、宮室全焼
	726	神亀３	難波宮の造営に着手（聖武朝難波宮）
中近世	1496	明応５	本願寺８世蓮如、大坂に石山別院を建立
	1532	天文元	山科本願寺焼かれ、証如大坂に移る
	1580	天正８	本願寺顕如、信長と和睦し、紀州に退去
	1583	天正11	秀吉、大坂城築城を開始
	1614	慶長19	大坂冬の陣
	1615	慶長20	大坂夏の陣、大坂城焼失
	1620	元和６	幕府による大坂城の修築工事開始
	1629	寛永６	大坂城修築工事完成
	1868	慶応４	明治維新の城中大火で大坂城ほぼ焼失
近現代	1871	明治４	政府、大阪城に鎮台を設置
	1877	明治21	大阪鎮台を第四師団とする
	1941	昭和16	太平洋戦争が始まる
	1945	昭和20	太平洋戦争により大阪城古建造物焼失
			終戦後、大阪城は米軍に接収
	1948	昭和23	米軍撤収、大阪城は大阪市に返還される

関連歴史年表

大坂城その後

明治～昭和時代初期にかけての大阪城周辺には、陸軍の軍事施設が数多くありました。今回の調査では被服支廠に関わるレンガ建物の基礎とともにヘルメットや防毒マスク等を埋めた穴や聯隊番号などを示す襟徽章や認識票などを棄てた桶を検出しています。この桶からは下に掲げた昭和20年の新聞が出土し、戦後処理に伴い遺棄されたものであることがわかりました。また、建物北西で検出したし尿浄化槽からは昭和18年～23年に限定される商標をもつ便器片が出土しています。

便器片

出土した新聞片

紀元二千六百五年　昭和二十年十月二十日　日曜

毎日新聞

官僚が軍閥に代り
聖上の御希望妨害
民主への暗雲一掃へ

宮内省改組指令

昭和20年10月22日の毎日新聞

徳川大坂城の時代

江戸時代の絵図では、今回の調査地の西側に「京橋口御定番屋敷」と記載されるだけで城の堀と武家屋敷の中間にあたる調査地がどのような状況になっていたのかは不明でした。しかし、今回の調査で南北方向にのびる柵の跡を５条以上検出し、城の外郭と屋敷地を区分する境界が設けられていた可能性が高くなりました。この柵は穴を掘って直接柱を立てる構造をもつものであり、すべてが同時期にあったのではなく数時期にわたって存続していたと考えられます。

これ以外では井戸や土坑（ゴミ穴）をいくつか検出し、これらの遺構からは瓦や陶磁器類の他に、寛永通宝なども出土しています。

江戸時代の絵図と調査地（文政新改 摂州大坂全図：1825年）

ヘルメットなどを埋めた穴

ヘルメットと防毒マスク

認識票と襟徽章

南北方向にのびる柵列

ゴミ穴から出土した遺物

礎石建物跡

カマドの跡

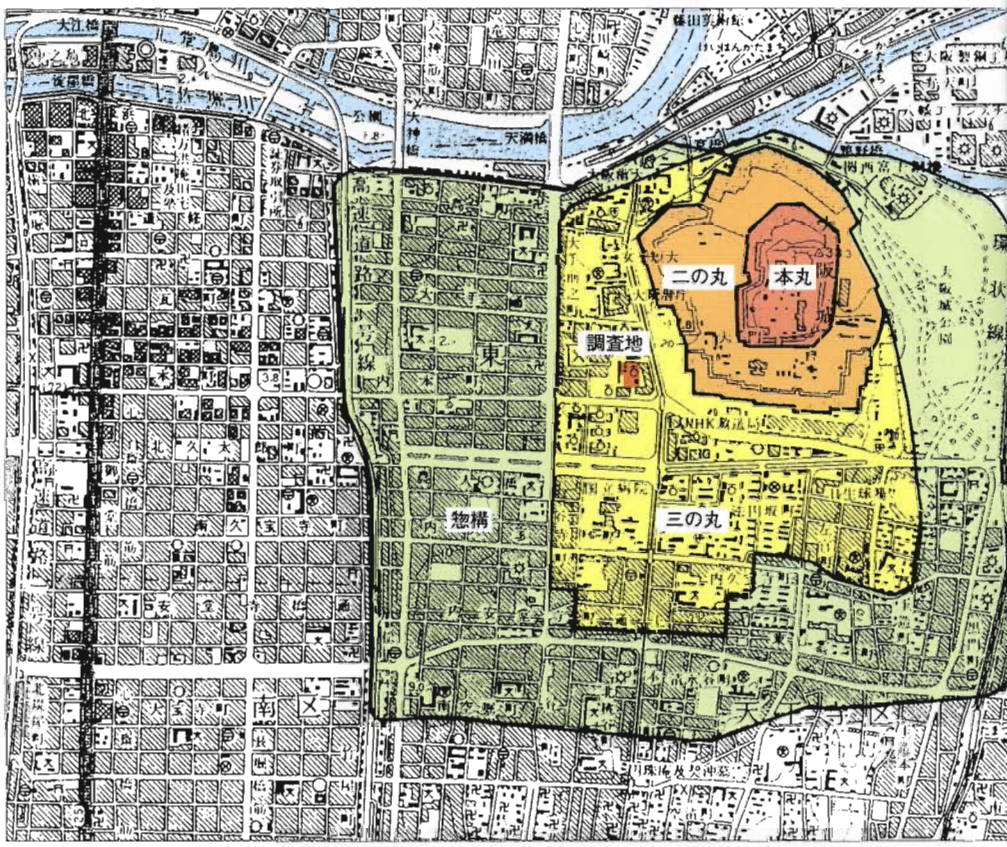
カマドの跡

桶を転用した井戸328

井戸328の調査風景

豊臣大坂城の時代

本能寺の変で織田信長が倒れた後、羽柴秀吉は天下統一の拠点として大坂城の築城に着手します。2年足らずで完成した本丸の天守閣は軒瓦などに金箔が貼られた壮麗なものでした。続いて二の丸や人工の堀と河川によって城下町を囲む惣構(そうがまえ)が築かれ城下町は大きく繁栄します。さらに秀吉は晩年に三の丸の築造を命じますが、この工事は惣構の内側に三の丸を築いて大名屋敷を伏見から移転させるため、すでにあった町屋を新たに惣構の外に整備した船場へ移すという大規模なものでした。工事は秀吉の死後も続けられ、やがて大城郭が完成します。三の丸は大坂冬の陣の後に完全に壊されたため、位置や規模が不明でした。しかし『僊台武鑑(せんだいぶかん)』の「大坂冬の陣配陣図」にはっきり描かれていたことがわかり、さらに近年、発掘調査が進み三の丸内の屋敷や堀、石垣などの状況が明らかになりつつあります。



豊臣大坂城外郭線推定図

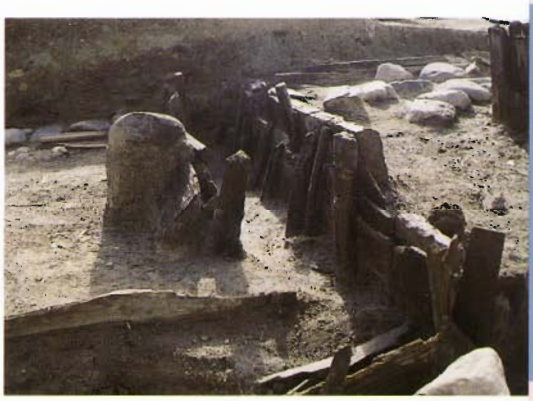
今回の調査成果

今回の調査地は大坂城の三の丸跡にあたります。調査地の南半は徳川大坂城の造営に伴って大きく削られ、井戸以外には顕著な遺構は残っていませんでした。しかし、削平を免れた井戸328は桶を転用した井戸枠を16段も積み上げ、その深さは検出面からでも深さ17mを測る非常に深いものでした。

また、北半部では谷部を階段状に造成した豊臣大坂城時代の生活面が徳川大坂城の盛土によってパックされていたため良好な状態で残っていました。生活面は4面を確認、いずれからも礎石建物跡を検出しています。三の丸段階の面では建物が大型であることや近接して佐竹氏の家紋瓦が出土しているなど、大名屋敷の一角を占めていた可能性も考えらます。なお、下層の生活面では木組み水路の細かい区画が検出され、金属加工に関わる坩堝なども出土し、惣構段階の町屋の様子を垣間みることも可能となっています。

建物の周りの瓦敷き

石敷きの道



木組みの水路

坩堝の出土状況

埋桶（便所？）

西暦	年号	記事
1580	天正8	石山本願寺焼き打ち
1582	天正10	本能寺の変、山崎の合戦
1583	天正11	賤ヶ谷の合戦　秀吉、摂津を占有　本丸築城開始
1584	天正12	小牧・長久手の戦い　本丸完成
1585	天正13	秀吉、関白となる
1586	天正14	二の丸築造開始　秀吉、大臣となり豊臣姓を名乗る
1588	天正16	二の丸完成　刀狩令
1590	天正18	小田原攻め、秀吉天下統一
1591	天正19	千利休、自害　関白を秀次に譲る
1592	文禄元	文禄の役
1594	文禄3	惣構築造開始
1595	文禄4	秀次から関白職を剥奪、自殺させる
1596	慶長元	慶長の大地震
1597	慶長2	慶長の役
1598	慶長3	三の丸築造開始　秀吉死す
1600	慶長5	関ヶ原の合戦
1603	慶長8	家康、征夷大将軍となり、江戸幕府を開く
1605	慶長10	秀忠、征夷大将軍となる
1609	慶長14	秀頼、方広寺大仏再建に着手
1614	慶長19	大坂冬の陣、大坂城外堀を埋められる
1615	慶長20	大坂夏の陣、大坂城落城、豊臣氏滅ぶ
1620	元和6	幕府による大坂城の修築工事開始
1629	寛永6	大坂城再築工事完成

大坂城の歴史

佐竹氏の家紋瓦（扇に月丸紋）

秀吉の重臣、佐竹義宣の家紋瓦。佐竹氏の屋敷が当地にまで広がっていたことを示唆する。

金箔瓦

豊臣大坂城では本丸、二の丸のみならず三の丸にも金箔瓦が使われていたことを裏付ける。

漆器と箸

様々な文様が描かれた漆器は、華麗な文化が花開いた秀吉の時代から多く使われた。

陶磁器

各地の国産陶器のみならず、青花と呼ばれる中国製の磁器なども好んで使われていた。

銭貨

中世以降、日本ではほとんど銭貨を作らず、中国などの銭貨を輸入して使用した。

木簡

出土した木簡は荷物の数量や人名が記されていることから荷札であったと推定される。

数珠玉

包含層を徹底的に洗浄することによって木製の数珠玉や水晶の母珠などの微細な遺物も確認。

羽子板

元々は羽根を鬼に見立て、羽根をつく＝鬼を打ち合うという意味から始まった遊び。

船の模型

類似品は草戸千軒町遺跡でも出土しているが、今回出土した模型ほど精巧な物は珍しい。

鏃と鉄砲の玉

弓矢を主体としていた戦いは、種子島に鉄砲が伝わったことによって大きく変化した。

算盤玉

算盤は中国から伝えられるが、その歴史は意外に浅い。今回の出土品は年代的に最古級。

鎧の部品

甲冑を構成する小札や紐金具である鞐が出土している。鎖の使用方法などは不明。

棹秤と分銅

貨幣制度が確立したこの時代は、棹秤や分銅も管理された特定の家系でのみ製作。

目貫と鵐目

目貫は刀身と柄を固定する装飾的な金具。鵐目は鞘に付属する紐かけ部分の金具である。

碁石・雙六駒・サイコロ・将棋駒

秀吉の時代には雙六だけでなく、将棋や碁も民衆まで普及し娯楽として楽しまれていた。

小　柄

小柄は刀に付属する小刀の柄。文様をもつものもあり、目貫の図案と統一される。

下　駄

形状や大きさなど様々な下駄が出土している。その中には漆が塗られたものもある。

刀

今回の調査では多くの刀装具とともに大きさの異なる刀が数点出土している。

大坂城前史―難波宮の時代

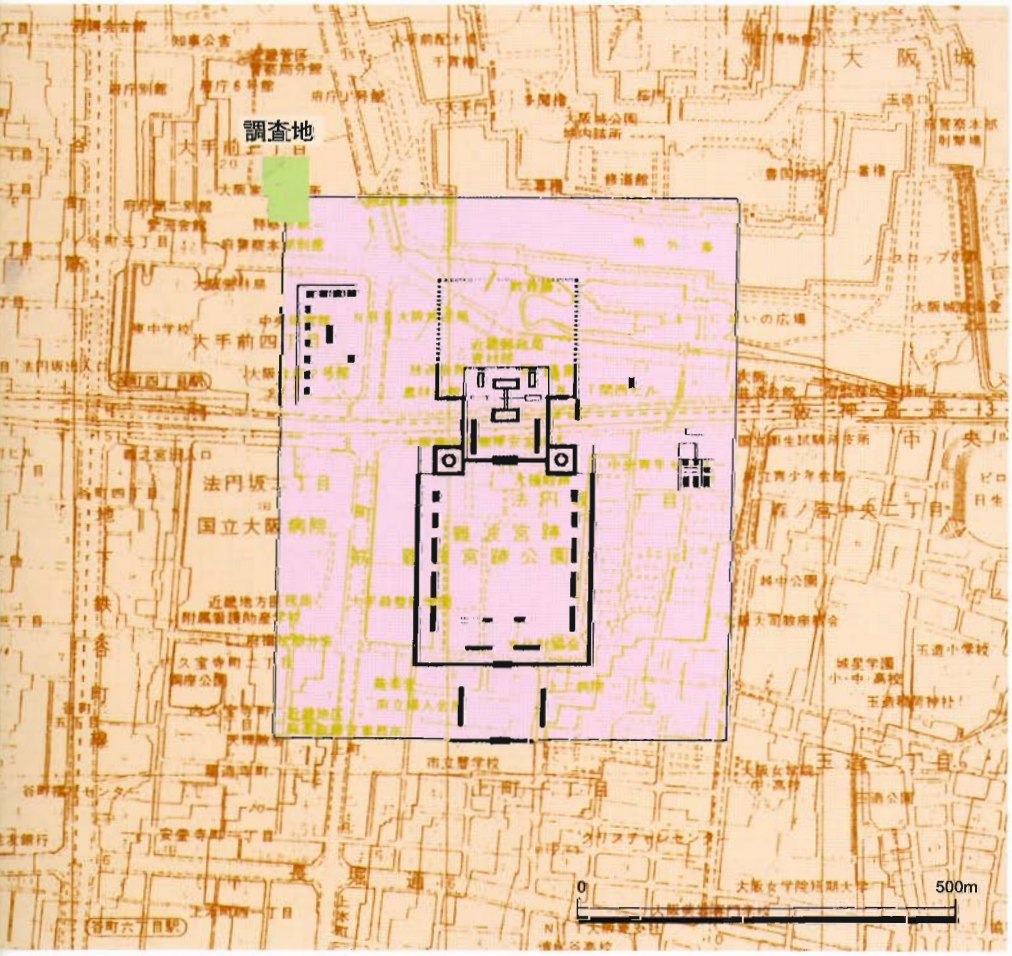
今回の調査地の南東の法円坂では難波宮跡が調査され、大きく2時期に分かれることが明らかとなり、そのうちの前期難波宮と仮称される古い段階のものは『日本書紀』に記された孝徳天皇の難波長柄豊碕宮にあたると考えられています。

今回の調査では調査区北端部で見つかった東西方向の谷から難波宮と同じ時期の土器や木製品が出土し、これらに混じって墨で文字を書いた木の札である木簡が20点以上も出土したことは特筆に値するものといえます。

さらに、そのうちの1点には「戊申年」という干支による年号が記され、これは同時に出土した土器の年代などから西暦648年にあたるものと考えられます。

この木簡は年代を記した木簡としては現在のところ国内最古のものであり、記録に残る孝徳天皇の難波長柄豊碕宮の造営年代とも近く、同時に出土した祭祀に関わると考えられる遺物とともに非常に重要な意味をもつ発見であるといえます。

木簡が出土した谷（西から）



前期難波宮と調査地

木　簡（右端が最古の紀年銘木簡）

様々な木製品

絵　馬

木簡と共に出土した土器

大阪府警察本部棟新築工事に伴う
大坂城跡の発掘調査

編集発行／(財)大阪府文化財調査研究センター　印刷／明新印刷(株)
発行日／平成11年11月